



<ベトナム・リサーチ・特別レポート>

情報提供用資料

2020年12月23日

バフェット指数にみるベトナム株式

米国の著名投資家ウォーレン・バフェット氏が株価の割安・割高を判断するときに使っているといわれるバフェット指数といわれる指標がある。

$$\text{バフェット指数} = (\text{株式市場の時価総額} \div \text{その国の GDP} \times 100) \quad (\%)$$

で測られる。

このバフェット指数は、経済が順調な国々では、株価は国の経済規模やその動きを表す GDP と比例して上昇していくという考えに基づいており、GDP が成長していないのに株価が上昇している状態であると不自然に株価が上昇している（割高）と考えるもの。この指数の 100% を基準として、割高、割安を判断する考え方がある。

$$\text{バフェット指数} = \text{時価総額} / \text{名目 GDP} \times 100 \quad (\%)$$

| | | インドネシア | タイ | マレーシア | フィリピン | ベトナム | 日本 | 米国 | 中国 | インド |
|---------------------|-------|--------|------|-------|-------|------|-------|--------|--------|-------|
| 名目 GDP (IMF;2020年推) | 10億ドル | 1,089 | 509 | 336 | 367 | 341 | 4,911 | 20,807 | 14,861 | 2,593 |
| 時価総額(WFE;2020年9月末) | 10億ドル | 381 | 432 | 379 | 220 | 149 | 6,075 | 39,238 | 10,627 | 2,080 |
| 2020年成長率 (IMF推) | % | -1.5 | -7.1 | -6.0 | -8.3 | 1.6 | -5.3 | -4.3 | 1.9 | -10.3 |
| バフェット指数 | | 35.0 | 84.8 | 112.7 | 59.9 | 43.7 | 123.7 | 188.6 | 71.5 | 80.2 |

(ベトナムはハノイ証取+ホーチミン証取の合計)

2020年9月末の各国の株式市場時価総額と名目 GDP (IMF2020年推計値)をもとにこの指数を計算してみると、米国は 189%、日本も 124%と割高/割安の目安とされる 100%を大幅に上回っている。両国の GDP の成長率がマイナスであることを斟酌すると、この不自然さはさらに際立つ。一方、コロナ禍でも成長が予測される中国 (+1.9%) は 72%、ベトナム (+1.6%) は 44%と 100%割れの水準であり、同指数からみて株価の上昇余地を残すものと考えられる。ベトナムの 44%はプラス成長を加味すると非常に低く、良好な経済成長の実態が株価に未だ反映されていないことが窺われる。

当資料は、情報提供を目的として、キャピタル アセットマネジメント株式会社 (CAM) が作成したもので、投資信託や個別銘柄の売買を推奨・勧誘するものではありません。また、CAM が運営する投資信託に当銘柄を組み入れることを示唆・保証するものではありません。当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。



さらに、実態経済面で今後ベトナム経済が有望である理由として、

- ① 今年主要工業国の中で**最大の成長率予想**（IMF；+1.6%→2.4%へ上方修正が予想される）、来年以降の成長率もトップクラス
- ② 世界の人口の約半数を占め、ポストコロナで世界が注目する**デジタル化（Eコマース/キャッシュレス）社会づくり**で、現在最も勢いがある**アジアで最も成功している国**
- ③ 「チャイナプラスワン」にもとづくグローバル企業の中国からの生産設備移管がコロナ禍でさらに加速、「世界の工場」の地位が固まりつつある（**外需＝輸出の拡大期待**）
- ④ 一人当たり GDP が 3,000 ドルを超え（IMF 予;3,498 ドル）、国の経済発展に弾みがつくステージにあり、今後の**内需拡大**が期待できる。多くの日系企業も進出
- ⑤ 来年 1 月の共産党大会（5 年に一度開催）で若返りをはかった**新体制**による**所得倍増計画**を含む**新経済政策**によって経済のさらなる躍進が期待できる。資本主義化がさらに進展
- ⑥ 証券市場改革が進み、来年以降、数年内に**流動性の拡大**、**外国人投資家マネー**の流入が期待できる。IPO による優良企業の民営化も進む見込み

等が挙げられる。

2021 年はベトナム株式市場の出遅れ感の見直しや証券改革による流動性拡大によって、実体経済の成長に株式市場が追従する地合いが強まると予想され、バフェット指数の改善も期待できると思われる。

<http://www.capital-am.co.jp>

以上